◎小学生の部

その他の良い作品

ゆめのはかま

手子林小学校　四年
阿久津　一華

三年生の時あいぞめ体けんをした
初め真っ白だったハンカチ
きれいなあい色にそまった時の
うれしさは今でもおぼえている
わたしの中で一番の思い出のハンカチ

わたしはけん道を習っている
けん道では「道着」と「はかま」がある
それはあいぞめでそめてあるもの
わたしが今ほしいものがめんばかま
ふつうのはかまとくらべ
ちょっと重くてしっかりしている
お母さんがめんばかまをはいているので
聞いてみた
羽生のせんしょく工業で
高校生の時に作ってもらった大切なもの
羽生はあいぞめで有名な町だそうだ
糸ぞめだからこその一生もののあいぞめ
二十年も使いつづけていてもまだ平気
あじがでてかっこいいでしょ

かっこいいだけじゃなくて
一生ものだと知ってビックリした
わたしはお母さんのめんばかますがたが
大すきだ
わたしがもっと大きくなったら
お母さんのめんばかまを
うけつぎたいと思う
大事に使って今より
けん道強くなるから

ツバメが教えてくれた

手子林小学校　六年
岩﨑　あゆな

私の家の玄関には
ツバメの巣がある
毎年春になると、ツバメが来る
そのツバメを見ると
春が来たのを知らせてくれている気がする
小さい妹が父に聞く
「パパ、ツバメいないね」
「春になると来るんだよ」
そんな会話をしていたのを思い出した
ツバメが春を連れてくる
そう思うと季節の変化が
いつもより楽しい
今まで気にしていなかった事に気がついた
四月だから春
じゃなくて
ツバメが来たから春
なんだか楽しい

風のにおい
虫たちの鳴き声
木や花の色
今までとちがう感じ方をしたら
何か見つかるかな
遠くで妹の声がする
「ママ、ツバメがいるよ」
ツバメさん
今年も春をありがとう

しのぶえとわたし

新郷第二小学校　三年
荻原　麻衣

白山太こで、ふえを習った
かんたんそうに見えたけど
ふーってふいても
音がならない
顔をまっかにして
ふいたけど
スースーするだけ
ぜんぜんならない
頭がくらくらしちゃったよ
口の形を
ちゅーにして
したにふくように
かえてみた
スースー　ピーピー
スースー　ピーピー
少し音がなった
そのちょうし
そのちょうし
頭がくらくらしちゃうけど

ピーピー
だんだんちょうしがでてきたよ
かがみの前で
れんしゅうしよう
かっこよくなれるかな
ピューピュー
少しいい音が出てきたよ

みんなの前
ふくにはまだまだだけど
いつか上手になったなら
ピュルルル
ピュルルル
おまつりで
みんなにかっこいいところ
見せたいな

お獅子さま

羽生北小学校　六年
佐藤　航輝

今年もあの日がやってきた
五月三日のお獅子さま
年に一度のこの行事
いつも天気は快晴無風
羽生の中でも数少ない
大事な春の恒例行事

昔のぼくはこわかった
お面をかぶったお獅子さま
刀を持ったお獅子さま
天気がいいにも関わらす
外には出られない五月の三日

それからぼくも高学年
こわがってばかりはいられない
今度はぼくがお面をかぶり
一軒一軒みんなとまわる

「ありやりやありやりやありやりやぁい」

家内安全無病息災
みんなとみんなに幸せ配る

おばあちゃんから
「ありがとう」といわれ
いつもはこわいお獅子さま
このときばかりはやさしく見えた

今年も全部家をまわった
お獅子さまも汗でびっしょり

大変だけど受け継ぎたい
大事な春の伝統行事

ぼくのハルト

三田ケ谷小学校　二年
西野　嘉人

ぼくの弟は　ハルト　二さい
ずっと　ほしかった弟
ずっと　まっていた弟
生まれた時　うれしかった
でも　ちがった
ハルトは　ぼくの言うことをきかない
ハルトは　おもちゃを出しっぱなし
ハルトは　ぼくのすきなからあげをたべた
ハルトは　よる　ねているぼくをおこす
ハルトは　いたずらをしてすぐにげる
ハルトは　ランドセルにおもちゃを入れた
ハルトは　教科書をグチャグチャにした
ハルトは　ぼくのミニトマトをぬいた
らんぼうな　ハルト
いたずらが大すきな　ハルト
ハルトは　ぼくが大すき
ハルトは　ぼくを見てわらう
ぼくは　わらったハルトのかおがすき
二人だけの兄弟
ほしかった弟とちがう
でも　大じな弟
ずっと　まもっていこう

きゅうり

三田ケ谷小学校　二年
平野　遥基

「やさいをもらったよ」
おかあさんがふくろをもってきた
のぞいてみると
きゅうりがはいってた
きゅうりがすきなおかあさん
ニコニコしてる
ぼくはきゅうりがちょっとにがて
みどりいろでにがそうだから
おかあさんがきゅうりをあらっている
のぞいてみた
うっているきゅうりとすこしちがうな
いろはうすいきみどりいろ
かたちはくるっとまがっている
ほうちょうでトンときった
おかあさんがたべた
「パリッ」
「うん、おいしいっ　たべてごらん」
ぼくはくびをふった
ぼくのよこでいもうとが
「あーん」と口をあけた
「カリッ」と音がなった
「おいち　もいっかぁーい」とわらった
よし、いもうとにはまけられないぞ
ぼくも「あー」と口をあけた
「カリッ」
あれ　にがくない
「おいしい。おいしいよおかあさん」
おかあさんがニコッとわらった
ぼく、きゅうりたべられたぞ
すごくうれしくなった
おかあさんがトントントンと
きゅうりをきる
ぼくといもうととはポリポリカリカリ
きゅうりをたべた
よる、おとうさんがかえってきたら
みんなでまたたべよう
とれたてのきゅうり
おいしいきゅうりありがとう

新二小の風景

新郷第二小学校　五年
村田　心優

わたしが通っている学校、新郷第二小学校
わたしのお母さん、おじいちゃんも通ってい
た学校
大きなすずかげの木
大きな大王松にたくさんのメタセコイヤ
すずかげの木は、毎年すずかげの実を落とす
大王松は、夏の休けい所
日かげをたくさん作ってくれる
わたしたちは木の下でおにごっこ、おしゃべ
り、おままごと
教室のまどから見えるメタセコイヤ
校舎の前に十三本
お母さんは小さいころ小鳥箱をおじいちゃん
と作ったらしい
メタセコイヤにくっつけて小鳥が入らないか
ずっと見ていたんだって

昔からあるたくさんの木々
ずっと新二小を見つめてる

六年間で巣立っていく、たくさんの生徒達
変わる先生方
ずっと新二小を見つめる木々は
何を思っているのだろう
風にふかれてさわさわと
ゆれる緑を
私はずっと、覚えていたい

わたしの国

手子林小学校　六年
吉田　千紗

世界には、たくさんの国がある。
わたしの住んでいる国は日本。
日本には、すばらしい文化がある。

わたしのお母さんは、
「日本人に生まれてきたのだから
　日本の芸道をやりなさい。」
いつも同じことを言う。

わたしが選んだ芸道は、
書道。
ひらがな、カタカナは、
漢字をもとにして、作られた。
ひらがなは、漢字の字体をやさしくしたの。
カタカナは、漢字をくずしたもの。
だから、ひらがな、カタカナを書くときは、
漢字を思いうかべながら書くようになった。

兄が選んだ芸道は、
空手。
正座の仕方。
あいさつの仕方。
礼儀の大切さを学んだ。

書道も空手も、
集中力も学べ、にんたい力も学べる。

大人になった時に、
自分の国の芸道に、ふれたことを
ほこりに思えるように、
今を大切に、過ごしていきたい。

そして、これからも、
たくさんの文化にふれ、
私がいつか世界にでたときは
すばらしい日本の芸道を
伝えられる人になりたい。

きなこぼたもち

新郷第二小学校　三年
吉野　倖生

ばあちゃん家のぼたもちは
きなこぼたもちだ

もち米２に白米１
お米をといで水を入れ
すいはんきでスイッチオン

しばらくして
だんだんあまいにおいがしてきた

ピロピロリー
お米がたけた音
すいはんきを開けたら
ぼわっとゆげが出てきた
たけたお米はつやつやだ

あつあつのお米を
お母さんはうちわであおぎ
ぼくとばあちゃんはにぎるかかり

手を水でぬらし
お米をまあるくまあるくにぎる
やわらかくてもっちりしている
何こもにぎるばあちゃんの手は真っ赤だ

きなこにさとう
しおをほんの少しまぜ
にぎったお米につける
「しおを入れるのはかくし味だよ。」
ばあちゃんが言ってた

出来たてのきなこぼたもちを口に入れる
もちもちのお米ときなこが口の中でまざって
とってもおいしい

はじめて作ったきなこぼたもち
みんなで作るともっとおいしいんだね